



会長就任挨拶

岳連を元気に

群馬県山岳連盟会長

八木原 啓明



羽野順一前会長の2期4年間の後を受け、群馬県山岳連盟の会長をお受けすることになりました。全岳連会員のご支援ご協力をお願い致します。

岳連とは群馬初のヒマラヤ登山計画が始まった一九七〇年春頃から関わり、理事、常任理事、海外登山研究会委員長、副理事長、理事長、副会長などを務めさせて頂きましたが、会長は責任の大きき重さが違います。緊張感を持って任に当たって参ります。

登山界は今、激変・縮小期にあるように思います。日本の時代の変わり目、世の中の動きと無縁ではなく、地方岳連も登山界も難しい舵取りが要求されています。経済もそう簡単に復活しそうにありませんが何をやるにも原資が必要です。これも大問題です。

本年度の役員改選に伴い副会長三人、副理事長二人体制となりました。角田二三男副会長には四期

目をお願いし、小泉俊夫、吉田直人新副会長、角田守、高橋守男新副理事長を迎えて佐藤光由理事長を中心に強力な布陣で着実に活動を進めて参ります。

日本山岳協会は平成二十五年度から新公益社団法人へ移行すべく準備を進めているが、それに伴い私共都道府県山岳連盟も活動内容を会員向けだけに留まることは許されず「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与すること」、分かり易く言うとな間予算の半分以上を岳連会員外の登山関連活動に使用わなくてはいけない、ということである。

これらの活動を進めるためにも加盟山岳会が会員増を計ることは当然とし、組織強化のためには加盟山岳会を増やす努力もなくてはならない。県内には勤労者山岳連盟にも加盟していない山岳会、山岳愛好会、同好会がたくさんある。それらの皆さんに働きかけて

加盟を促す必要がある。積極的な登山活動、技術向上、遭難防止、万一の場合の山岳保険のための日山協共済会加入、自然保護、自然環境保護の啓発などを「一緒に進めましょう」と。

ジュニアと中高年登山者の育成は最重要課題の一つです。ジュニア育成はすぐに会員が増える、岳連の力になるなど即効薬的に結びつくものではないが、将来へ向けての布石、下地づくりと心得て、承知すべきである。中高年登山者の世代の勢いは無いにしても、この世代の皆さんの社会的経験など組織としても頼れ、非常に有用である。

岳連運営はこれまでは良い意味での「委員会任せ」で来たが、これからは委員会相互あるいは委員長以外の岳連理事、会員が全委員会にもっと関心を持ち、眼を光らせ、関わることで活動の活性化、適正化を図る。これは日本山岳協会も全く同じである。

岳連活動では何が根幹かといえば、やはり登ることである。私自身が最近あまり登っていないの言いにくいですが、今の岳連活動は本末転倒の活動になっていないだろうか？とにかく登ることを最優先

先させ、登ること以外はそれに付随する活動である、「登るためにある」と認識したい。もちろん登ることは各加盟山岳会に任せ、岳連はもっと大所に立つて山岳会活動がやりやすいよう支援することであると承知していてもである。群馬には良い山がたくさんあり、日本有数の第一級の岩場も控えている。

競技、国体であるがクライミング施設の極端に少ない本県としては先ず施設の拡充への活動を開始したい。本格的なリードクライミングボードは少し先送りとしても、ボルダリング用ボードくらいは県内十一市の公的施設に最低一カ所ずつ位はどうしても欲しい。十一市長や群馬県当局へ働きかけたい。来年は群馬が国体のブロック大会担当である。

指導者は必要であるが、高校生や中学生が遠くまで出かけるための父兄や顧問教師の負担を減らし、手を煩わせなくとも近場でトレーニングが出来るようにならなくては競技力強化、どころか普及もかなわない。一緒に進めましょう。ご支援、ご協力よろしくお願い致します。

平成二十四年度

群馬岳連総会開催

総務委員長 女屋 等 志

角田 二三男
副会長小泉 俊夫
副会長吉田 直人
副会長佐藤 光由
理事長角田 守
副理事長高橋 守男
副理事長女屋 等志
事務局長

二〇一二年五月二十七日(日)
午後六時から、群馬県山岳連盟平成二十四年度総会が前橋市内の上毛会館で開催されました。

総会は、規約に従い羽野会長が議事進行し、女屋等志事務局長が議案書に基づき説明し、平成二十三年度事業報告、同収支決算報告等の議案が審議され、異議なく承認されました。

続いて平成二十四・二十五年度の会長・副会長の役員改選が行われ、理事会から会長に八木原罔明氏、副会長に角田二三男、小泉俊夫、吉田直人の三氏が推薦され選任されました。

また、総会で監事に水野金太郎、藤沼隆男両氏が選出されました。事務局長には女屋等志氏が会長から選任されました。
引き続き八木原新会長により議事が進行され、平成二十四年度事業計画・同収支予算が審議され承認されました。

《平成二十四年度事業計画》

一 遭難防止活動の推進

谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動及び救助隊の技術の向上のため訓練を行う。

二 国民体育大会への参加と選手強化

第六十七回国体山岳競技関東ブロック大会(東京都)及び「ぎふ清流国体」(岐阜県)への参加と好成績を目標とする選手強化を推進する。

三 (社)日本山岳協会主催行事等への参加と各会の交流

(社)日本山岳協会主催行事等に参加するとともに、各会相互の交流を深め、研修会等を通じて技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

四 自然保護活動の推進

自然観察会を開催、また、尾瀬のゴミ持ち帰り運動、谷川岳等の美化運動等の推進に協力する。

五 岳連会報の発行

「山岳ぐんま」の発行を通じ、会員の結びつきと啓発を図る。

六 海外登山の計画

第十次岳連ヒマラヤ登山を計画する。

七 第二回上州武尊山スカイビュートレイルの支援

第二回上州武尊山スカイビュートレイルのコース調査と、山岳コースにおける競技運営を支援する。

主催 上州武尊山スカイビュー
トレイル実行委員会

期日 平成二十四年九月二十九
日(土)～三十日(日)

会場 利根郡川場村 上州武尊
山周辺

八 第二十八回群馬県民の日記念事業「第三十五回県民登山大会」の開催

「ぐんま山と森の月間」協賛イベント及び「県民の日」及び「ぐんま山の日」制定記念事業の一環として、一般県民から参加者を募集し、県民登山大会を開催する。
期日 平成二十四年十月二十一
日(日)

会場 赤城山南面
主管 個人会員委員会

九 各種研修会及び講習会の開催
登山指導委員会及び遭難対策委員会が主管して、県民一般及び岳連会員を対象に登山技術講習会を開催するとともに、登山指導員の資質の向上を目的に研修会を開催する。

十 個人会員の組織と活動支援
未組織登山者又は岳連会員以外の登山団体に対して個人会員を組織し、安全登山の普及と活動に関する情報サービスを提供する。

十一 岳連事業収入の確保
岳連の事業・事務を円滑に推進するため、平成二十五年版山岳写真カレンダーの制作頒布などの事業を行い、自主財源を確保する。

十二 創立七十五周年記念事業
平成二十八年度に岳連創立七十五周年記念事業を計画するため、準備金を積み立てる。

十三 その他

平成24・25年度 群馬県山岳連盟役員及び専門委員会名簿

(平成24年6月11日現在)

会 長	八木原罔明(ミヤマ)
副 会 長	角田二三男(高体連) 小泉俊夫(前橋) 吉田直人(境)
監 事	水野金太郎(沼田) 藤沼隆男(大間々)
理 事 長	佐藤光由(ミヤマ)
副 理 事 長	角田 守(前橋) 高橋守男(高体連)
会 計	◎長谷川 勇(中之条)
総務委員会	◎女屋等志(ミヤマ)
編集委員会	◎岡安茂能(高体連)
遭難対策委員会	◎小暮文彦(境) 梁瀬佐市(沼田) 櫻澤 斉(沼田)
登山指導委員会	◎角田 守(前橋) ○星野俊充(境) ※山田精一(高体連) ※对比地 昇(高体連) 岩井英芳(個人) 石橋 修(独峰)
競技委員会	◎赤松久宇(太田) ○堀越利通(登高会) ※新井好司(高体連) 松田龍彦(前橋) 茂木 稔(独峰) 岩崎年伸(高体連) 斉藤 健(登高会)
海外登山委員会	◎剣持典之(境) ※田島崇行(登高会) 飯塚敏宏(ミヤマ)
自然保護委員会	◎齋藤長作(松井田) ※松本 博(前高OB) 三田治宣(太田)
事業委員会	◎見城正造(沼田)
個人会員委員会	◎阿部 源(ミヤマ) ※山越稔雄(登高会) 新井邦光(高崎) 長田厚実(沼田)
特別会員理事	根岸良夫(県観光物産課長) 林 康宏(県スポーツ健康課長) 柘植 求(競技委員会、ウォールストリート)
理 事	山崎孝利(吾妻) 萩原孝志(安中) 永井伸之(渋川岳想) 串橋卓馬(信越化学) 中島正二(水上) 原口慎太郎(太田) 剣持英司(中之条) 豊野則夫(岩遊) 小和田和貞(ミヤマ) 野口勝広(松井田) 田中洋史(高体連) 関口達也(富士重工) 山本泰司(アイスエクストリーム) 鹿田雄三(桐生) 植木康夫(前高OB) 石井達幸(伊勢崎) 毛呂憲治(前橋) 清野啓介(沼田) 橋本 勝(日本山岳写真協会) 前原 勉(大間々) 町田幸男(シグマ)
事 務 局 長	女屋等志(ミヤマ)

◎常任理事・委員長 ○常任理事・副委員長 ※副委員長

平成24・25年度 群馬県山岳連盟顧問・参与

顧 問	中曽根弘文 羽野順一(境)
参 与	小林次郎(登高会) 石井謙一郎(伊勢崎) 田中成幸(登高会) 渋澤真一(境) 中原正喜(ミヤマ) 月岡武久(星稜) 吉田茂作(前事務局長) 田中壯佑(鵬翔) 太田忠行(独峰) 加藤藤夫(富士重工) 樋口宗平(桐生) 水野金太郎(沼田) 悴田正也(高体連) 中澤安信(伊勢崎) 牛久保 拓(伊勢崎) 井下隆弘(伊勢崎) 村上泰賢(倉渕) 竹山繁男(独峰) 松永幸雄(沼田) 寺内正明(前高OB)

The logo of the Japan Mountain Association (JMA) is displayed in the top left corner. It consists of the letters 'JMA' in a stylized, bold font.

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

平成 22 年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成 23 年 6 月 10 日)

発生件数 **1,942** 件 (前年対比 266 件増)

遭難者数 **2,396** 人 (前年対比 311 人増)

死者・行方不明者 **294** 人 (前年対比 23 人増)

詳しくは → www.jma-sangaku.or.jp

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

平成二十四年度自然観察会

盛夏の村上山と

鹿沢園地自然学習歩道を歩く

群馬岳連自然保護委員会 三 田 治 宣

実施期日 平成二十四年七月

参加者数 岳連役員及び講師十四

関東は梅雨明けしたもの、こ

二十二日(日)

名、一般参加二十四名

このところ週末ごとに雨だった。

開催場所 上信越高原国立公園

合計三十八名

実施日当日、目が覚めると案の定

村上山及び鹿沢園地

小降りの雨だった。

しかし、西の方は天気は回復してきているらしい。嬭恋村に向かう途中、渋川市あたりからは空が明るくなってきた。今日は大丈夫だろう。群馬の東端の自宅と西端の嬭恋とは天気の違いに驚いた。

開催地の村上山は麓に国民宿舎や環境省が管理している公園やキャンプ場、薬草園等がありとても整備されている。家族連れでも楽しめるような場所である。

インターネットではスノー

シューでの記事が多いため冬のイメージがあるが、レンゲツツジの群生があり、近くの湯の丸高原には遠く及ばないものの、時期になると結構華やかになると思われる。静かな場所、結構穴場だとも思う。

地元からみれば村上山は里山だが、そもそも標高が高いためそれなりの植生がみられる。モデル事業として人工的に植林され整然としたカラマツ林もきれいだ、その根元にも十分解説ネタになるくらい

の野草が見受けられた。

鳥類も豊富であり、何種類もの聞いたことのない鳴き声が歩いている間中楽しめた。途中、あずまやにて講師の方にレクチャーしてもらい、冗談交じりの解説は良い休憩時間となった。

ここから程なく頂上にでるのだが、登山道は見事なゴヨウマツの大木の樹林を進んだ。隣





こを復路とした。車椅子も通れるほど整備されたウッドデッキの高床式の通路だが、今は苔が生えていて滑りやすく大変危険だった。参加者が転んだ拍子に怪我をしたり沢に転落したりするまいかと心配した。本日の核心であった。

インフォメーションセンターのわきで昼食後、隣接する葉草園にて二班に別れ、職員の方々に解説をしていただいた。ここでは、一時間程度植物の解説を受けながら散策

の山がスキー場になる雪の多い地方にて、それを撥ね付けるほどの枝ぶりは自然の深さを感じた。丁寧の下草の刈られた頂上は、晴れると嬌恋らしく麓のキャベツ畑が一面に見渡せる。今日はあいにく低い雲がかり見えなかった。しかし雲海となっており浅間山が迫るように見え、遠くは八ヶ岳連峰の頂上がぼかりとみえた。出発してからここまで、二時間半あまりの行程である。

山中での帰りは往路をたどるが、沢沿いへ降りる道の分岐がありそ

をした。参加者はプロ顔負けの知識があるので、職員が解説へのツツコミに苦笑いしているのがわかる。一通り順路を巡ったところで再度集合し観察会は終了となった。例年なら距離があり、黙々と歩かないと間に合わない行程だったが、今回はゆとりがあつたので解説に時間がとれ、とても有意義な観察会だったと思う。

また岳連行事を通して、人のつながりのありがたさを感じた観察会でもあつた。

個人会員委員会

平成二十四年度

第四回交流登山報告

群馬岳連個人会員委員会 関 口 哲 生

今回は、共済会の補助金の申請をしなかったため人数あつめに躍起にならなかったが、新聞やチラシでの宣伝効果は薄くさびしいものがあつた。

しかし、今回も高崎山岳会の参加で人数が集まり、立派な自然観察会となった。とてもありがた

かった。

次に、昔勤めていた会社の先輩に会えたこと。昔から山が好きだった方だったのだが、これからは山や人生の先輩としていろいろ教えて頂こうと思う。

次に、毎朝通勤途中に散歩している人とすれ違うが、その方が今

回参加されていたことである。服が山道具のメーカーなので気になっていた方だった。世の中狭いものだなあと思った。

このように毎回あたらしい発見のある自然観察会。人とのつながりが楽しくさせ、大切なことだということを感じた。



山域 日光白根山(二五七八m)

期日 七月二十二日(日)

天候 小雨―曇りのち晴れ

行程

Aコース 菅沼登山口―弥陀ヶ池

―日光白根山山頂―大日如来―

山頂駅―山麓駅

〔メンバー〕小島、一場、柳、山川、

北林、井上、清水、星野、梅田。

〔スタッフ〕岡田、阿部、長田、佐竹、

根岸、関口、花と山の会から

児島哲夫講師。

Bコース 山麓駅―山頂駅―大日



如来―日光白根山山頂―坐禅山
―六地藏―山頂駅―山麓駅
〔メンバー〕新井、江原、入江、塩原、堀口。
〔スタッフ〕山越、吉田、沼居、森田。
内容は上州観光(株)の大型バスでのゆったり移動で、七時頃に丸沼高原スキー場に着く。此処で、長田氏の指導の下に、全員で準備運動をして、身体をほぐす。その後、此処からBコースの九名が、八時から運行しているロープウェイに、山頂駅を目指して乗り込む。生憎の小雨模様であるが、メン

バーの気持ちは憧れの日光白根山登山の期待に膨らんでいる。Aコースの十六名は菅沼の登山口まで更にバス移動して、其処から歩き始める。
Aコースのリーダーは岡田氏が務め、全体の安全やペース配分などを上手くり導し、特別講師の児島氏も、樹木や草花の解説を判りやすく説明してくれ、普段とは一味異なる登山になった。

また、各自がゴミ袋を持参しての清掃登山でもあり、登山道には殆どゴミが無かったが、それでも小さなゴミを目ざとく見つけ、回収しているメンバーには頭が下がる思いである。十時過ぎに弥陀ヶ池に着くが、山頂から東京の小学生二〇名が下山して来たので、それをやり過ごして十時三十分からまた登り出



十二時前に山頂に着き、記念写真などを撮る。その後、山頂近くの広い場所でランチタイム。登山で一番嬉しいひと時である。
天気もこの頃になると、雲間から太陽が顔を出すようになり、昼食後は阿部氏による有意義なテーピングの講習があり、全員が熱心に聞き入る。
A班は二時過ぎに山頂駅に着き、B班を待つ。一時間ほど遅れてB班も無事山頂駅に着き、全員で記念写真を撮る。楽しい有意義な交流登山であった。

味のりんど

アンナプルナりんど園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802

<http://annapurna.jp>

annapurna

総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 浜川市有馬 164
☎ (0279) 24-7111(代)

工事部 浜川市赤城町北上野 203
☎ (0279) 56-8111(代)

電話、弱電工事

プモリ電設

〒 379-2223
伊勢崎市小泉町 252
☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026